



有機JAS認証、取得プロセス

エコサート・ジャパン株式会社

2023年10月

エコサート・ジャパン 会社概要

会社名： エコサート・ジャパン株式会社

代表者： 代表取締役社長 吉澤達雄

現住所： 東京都中央区新川1-22-17 グランド茅場町ビル 3F

設立： 2000年6月（フランスを代表する有機認証機関、エコサートグループの100%子会社）



有機JAS認証： 日本国内に加え、グループ20ヶ国で提供。認証事業者数 約760

（2023年8月時点）= 日本の有機JAS認証におけるリーダー



COSMOS認証： 約60社(2023年8月時点) = 日本国内で約80%のシェア



その他、EU向け認証、USA向け認証、テキスタイル認証を提供



有機酒類に関しては、以前より国税庁の表示基準に基づき、エコサート・ジャパン独自の認証サービスを提供

毎月8日はオーガニックの日！

日本でのオーガニック認知度向上アクション



環境にやさしい オーガニック食材を食卓へ

毎月8日は
オーガニック
の日!!

2050年までに
耕地の25%を有機へ

「みどりの食料システム戦略」中間とりまとめ（農水省）より

JAS 協会では、本年度から「毎月8日は 有機の日」キャンペーンに取り組むことといたしました。詳細はJAS協会HPを参照してください。

The poster features a green header with the text '環境にやさしい オーガニック食材を食卓へ'. The main title '毎月8日はオーガニックの日!!' is written in large, bold, black characters with a yellow glow effect on a white wooden plank background. Below the title, it says '2050年までに耕地の25%を有機へ'. At the bottom, it references the 'みどりの食料システム戦略' (Midori no Shokuryo System Strategy) intermediate summary from the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries. A speech bubble on the right contains information about the JAS Association's campaign starting in the current year. The background is decorated with illustrations of various organic vegetables like tomatoes, bell peppers, and leafy greens.



【1】JAS制度の概要と有機酒類の輸入

- ・有機酒類JASの動向
- ・有機JAS認証の枠組み
- ・輸入品の対応

【2】JAS認証申請の留意事項

- ・認証申請の流れ
- ・輸入業者の認証に必要なこと
- ・外国政府証明書の手
- ・審査料

有機酒類に関するJASの動向

有機加工食品の日本農林規格で認証可能に

- ・2022年10月1日から、当時の規格で対応可能な酒類から認証可能
例) 日本酒
- ・2023年4月1日から、アルゴン、酵母細胞壁、二酸化硫黄、ピロ亜硫酸カリウムを使用する酒類も認証可能
例) ワイン

同等性の相互承認による輸出入

- ・既存同等国(有機農産物、有機農産物加工食品等)と有機酒類について交渉中
⇒承認されれば、JAS認証輸入業者により有機表示可能

既存同等国: アメリカ、EU、英国、オーストラリア、カナダ(有機酒類承認済)
スイス、アルゼンチン、ニュージーランド、台湾

2025年10月1日から有機JAS認証の義務化

- ・それまでは、国税庁表示基準による有機酒類表示が可能

JAS法の概要

有機JAS認証の枠組み 認証の対象

JAS認証



JAS認証



JAS認証



認証の対象は、
有機農産物や有機加工食品を生産する事業者が原則

JAS認証



卸売り



小売り

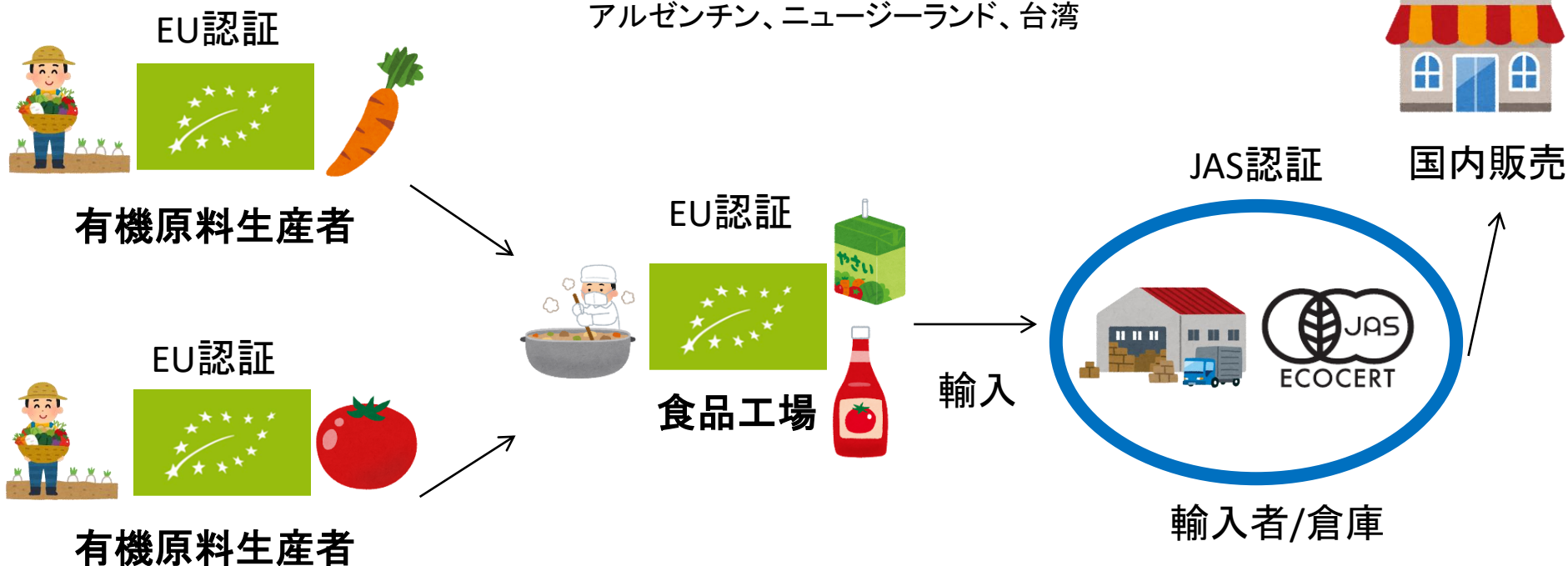
JAS法の概要

有機JAS認証の枠組み 同等性の利用

例) EUからの輸入

JASと同等の制度を有する国・地域から輸入する場合
JAS認証輸入業者が有機JASマークを貼付可能

既存同等国(有機農産物、有機農産物加工食品等):
アメリカ、EU、英国、オーストラリア、カナダ、スイス
アルゼンチン、ニュージーランド、台湾



有機酒類の輸入業者が必要なアクション

✧ 同等性を利用した輸入 **輸入業者が有機JAS認証**を取得

・有機酒類の承認状況に応じたアクションが必要

・承認済の国: カナダ

・承認予定国: アメリカ、EU、英国、オーストラリア

スイス、アルゼンチン、ニュージーランド、台湾

✧ 同等性を利用せずに輸入 **海外事業者が有機JAS認証**を取得

・承認対象となっていない国は必須 例: チリ、南アフリカ

・既存同等国は、原料農産物等の有機JAS認証は省略可能

次のスライドで図解

同等国から輸入(例:EU)

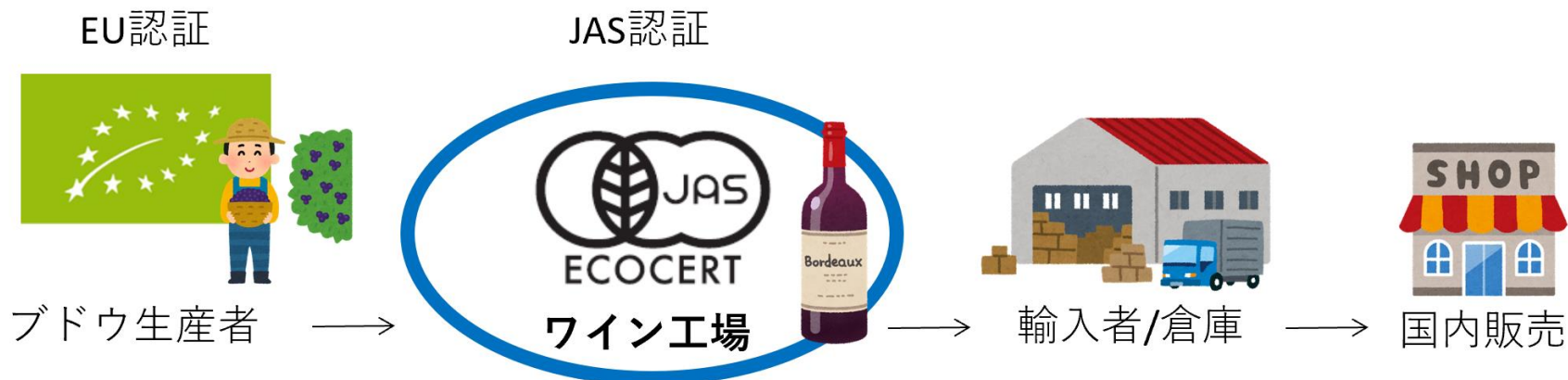
1. 輸入業者がJAS認証を取得

* 有機酒類JASの同等性を利用
承認後に可能 (2023年8月31日カナダ)



2. 現地事業者がJAS認証取得

* 有機農産物JASの同等性を利用
農産物の同等性は承認済なので既に可能



同等国以外の国から輸入 (例:チリ、南アフリカ)

現地事業者がJAS認証取得

* 同等性は利用できない
生産者、工場ともJAS認証が必要



✦ 海外事業者のJAS認証申請 ⇒ 海外でJAS認証できる認証機関に申請

✦ エコサート・ジャパンでは、エコサートグループオフィス(約20ヶ国)から申請することが可能。

輸入品の対応： 輸入業者のJAS認証

✧国内輸入業者が有機JAS認証を取得する方法 ポイント

- ・JAS認証カテゴリーは、「有機加工食品の輸入業者」
- ・認証対象となる場所は、管理主体(輸入者)と受入保管施設(倉庫)
- ・同等国にあるメーカー等から直接輸入する場合は条件
- ・JAS認証輸入業者が、有機JASマークを貼付することが可能
- ・現地事業者にも、有機JASマーク貼付を委託することも可能

メリット

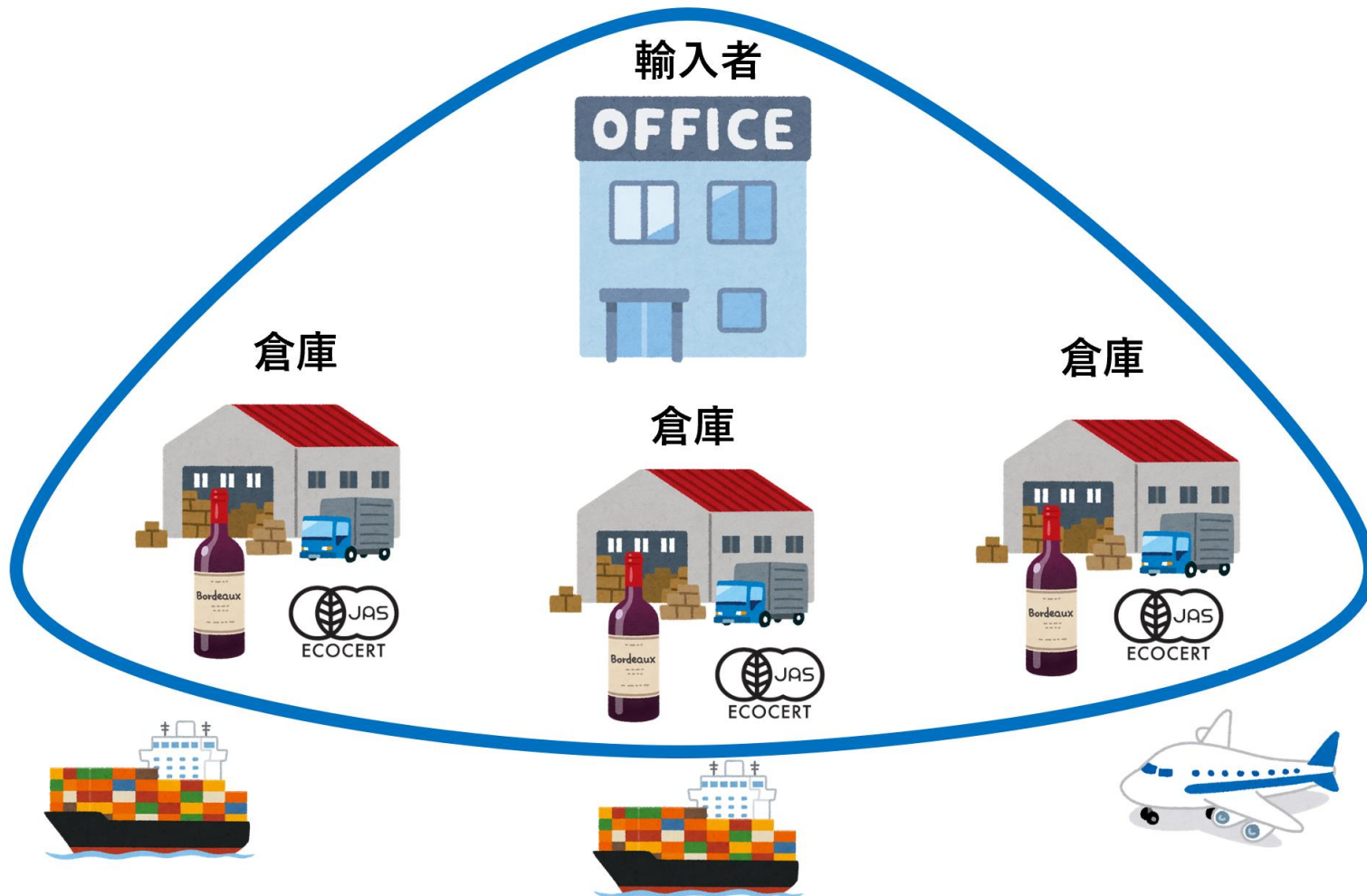
- ・現地メーカーが、現地の認証を取得していれば、現地のJAS認証は不要
- ・同等国にあるメーカーと幅広く取引可能

デメリット

- ・輸入業者が認証を取得するためのコスト(認証費用、運用上の手間)
- ・同等国以外からの輸入品に対しては、有効ではない

輸入品の対応: 輸入業者のJAS認証 イメージ図

管理主体（輸入者）と受入保管施設（倉庫）を一体的に認証



輸入品の対応：現地事業者のJAS認証

➤ 現地メーカー等が有機JAS認証を取得する方法 ポイント

- ・JAS認証カテゴリーは、メーカー「有機加工食品の外国生産行程管理者」
生産農家「有機農産物の外国生産行程管理者」
- ・同等国のメーカーは、同等国の認証原料を使用することが可能
- ・同等国以外からの輸入品は、この方法のみ。例)チリ産有機ワイン

メリット

- ・国内輸入業者の有機JAS認証は不要
- ・現地事業者にとっては、JAS認証取得すれば、幅広く取引できる

デメリット

- ・現地事業者には有機JAS認証に係る負担がかかる
- ・国内輸入業者にとっては、幅広い取引ができない
- ・同等国の基準上、認められる添加物でも、有機JAS直接認証では使用不可

国、地域ごとのアクションのまとめ

対象国、地域	酒類JAS輸入業者利用の可能性 =有機酒類の同等性合意の可能性	現地事業者が直接JAS認証を取得する場合	
		ワイン工場のJAS認証	ブドウ生産者のJAS認証
アメリカ、EU、英国、オーストラリア、スイス、アルゼンチン、ニュージーランド、台湾 (農産物等の同等性承認済)	有り ※カナダは酒類の同等性承認済	必要	不要 (当該国基準の認証を受けていることが前提)
上記以外 (例:チリ、南アフリカ)	無し	必要	必要

- 様々な状況を踏まえ対策をとることが必要
- ・同等性を利用できる可能性はあるか？
- ・同等性承認が2025年9月末までに間に合わないリスクは？
- ・取引する現地事業者の数は？
- ・輸入業者のJAS認証のコストと現地事業者のJAS認証のコストは？



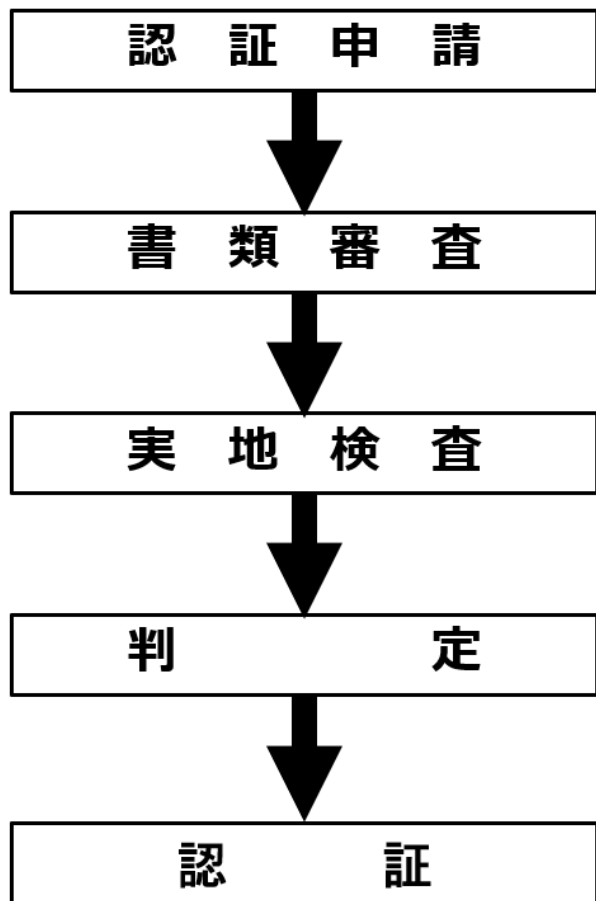
【1】JAS制度の概要と有機酒類の輸入

- ・有機酒類JASの動向
- ・有機JAS認証の枠組み
- ・輸入品の対応

【2】JAS認証申請の留意事項

- ・認証申請の流れ
- ・輸入業者の認証に必要なこと
- ・外国政府証明書の手
- ・審査料

認証申請の流れ



1. 認証を受けようとする登録認証機関に認証申請書を提出する。
2. 申請書に記載された内容が、認証の技術的基準に適合するかどうかについて書類審査する。
3. 申請内容と実際の管理状況が一致しているかについて実地検査を行う。
4. 申請書、書類審査及び実地検査の結果に基づき認証の技術的基準への適合性を評価し、認証の可否についての判定を行う。
5. 登録認証機関から申請者に認証証が発行される。

輸入業者の有機JAS認証に必要なこと

➤ 施設

- ・輸入品の受入れ保管施設
⇒有機JAS対象ロットのチェック、有機JASマークを貼付
- ・保管施設の防虫防鼠の方法
⇒物理的な防除が基本、使用可能薬剤もあり

➤ 手順書

- ・内部規程の策定⇒輸入品の受入れ保管の管理に関する手順書
ポイントは、輸入ロットごとの外国政府証明書の確認
- ・格付表示規程の策定⇒有機JASマークの管理に関する手順書

➤ 人員

- ・受入保管責任者
⇒資格要件:食品の流通の経験(実質2年以上必要)、JAS講習会の受講
- ・格付表示担当者
⇒資格要件:営業部門から独立した立場、JAS講習会の受講

輸入業者の認証の技術的基準参照(農林水産省HP)

[yuuki-77.pdf \(maff.go.jp\)](http://yuuki-77.pdf(maff.go.jp))

審査料等

- 年間の審査費用(倉庫1か所):30万円～
 - 変動値:倉庫数、取扱い商品数、不適合数
- 有機JAS講習会費用 **次回の定期開催日2023年11月14日(火)**
 - 弊社認証事業者(申請予定者含む): 22,550円(税込み)/人
 - 弊社認証事業者以外: 24,200円(税込み)/人
 - 個別講習会: 11万円(税込み)、人数の制限なし
- 認証取得にかかる時間
 - 申請受付から3か月前後
- 人的コストについて
 - 必要人員の配置(認証関係のためだけの組織を設ける必要性は少)
 - 毎年の審査に係る準備と当日の対応
 - 輸入の都度発生する必要書類と記録
 - 認証機関への報告(年間の実績報告)
 - 倉庫会社の協力関係

GROUP



ECOCERT

Act for a sustainable world

エコサート・ジャパン株式会社 | [Ecocert Japan Ltd.](https://www.ecocert.com/ja-JP/home)

〒104-0033 東京都中央区新川1-22-17 グランド茅場町ビル3F

TEL: 03-6222-8082 (食品認証部門)

Email: ecocertjapan@ecocert.com

<https://www.ecocert.com/ja-JP/home>

ご清聴いただきありがとうございました。
是非、エコサートの認証サービスをご利用下さい。

ご質問は、ホームページよりお願いします。